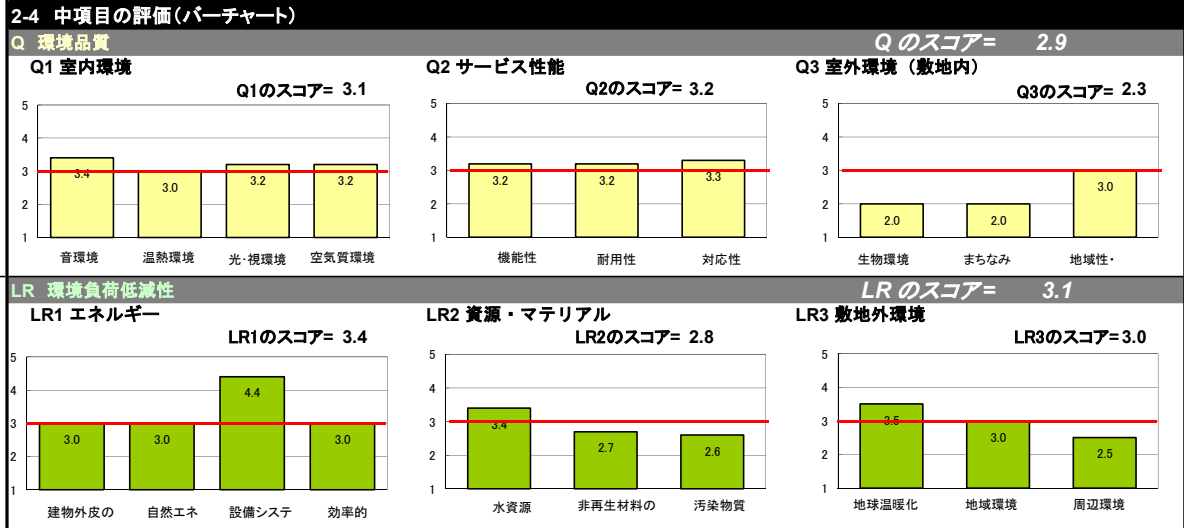
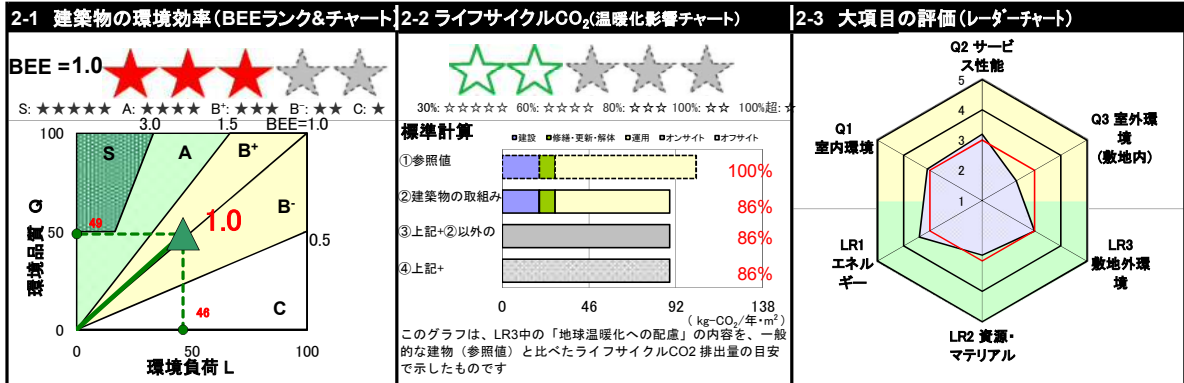


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東浦町緒川駅東計画	階数	地上14F
建設地	愛知県知多郡東浦町大字緒川字旭	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域・法22条地域・特定	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	0時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年1月12日
敷地面積	2,695 m <sup>2</sup>	作成者	大嶽達郎
建築面積	830 m <sup>2</sup>	確認日	2018年1月12日
延床面積	6,958 m <sup>2</sup>	確認者	大嶽達郎



### 3 重点項目

<b>①地球温暖化への配慮</b> 3.5	<b>③敷地内の緑化</b> 2.0 外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 20.7 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
<b>②資源の有効活用</b> 2.8	<b>④地域材の活用</b> 1.0 <外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$





<b>3 対応性・更新性</b>					3.0	0.29	3.5	3.5	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり								4.0	4.0	0.50
1 階高のゆとり				階高=2.9m以上です。					4.0	0.60
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率=0.24です。					4.0	0.40
3.2 荷重のゆとり									3.0	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						0.30				2.3
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			2.0	0.40				2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>					3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				
3.2 敷地内温暖環境の向上					3.0	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.1
<b>LR1 エネルギー</b>						0.40				3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.33				3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.88です。	4.4	0.33				4.4
4 効率的運用					3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
集合住宅の評価					3.0	1.00				
4.1 モニタリング					3.0	0.50				
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						0.30				2.8
1 水資源保護					3.4	0.15				3.4
1.1 節水				節水型便器などを採用して節水を図っています。	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				
2 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				
2 雑排水等利用システム導入の有無										
2 非再生性資源の使用量削減					2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②			3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自			1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		独自		LGS+PBIにして再利用向上へ取り組んでいます。	4.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.6	0.22				2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避					2.5	0.68				
1 消火剤										
2 発泡剤(断熱材等)					2.0	0.50				
3 冷媒					3.0	0.50				
<b>LR3 敷地外環境</b>						0.30				3.0
1 地球温暖化への配慮		①		ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物と同等以上です。	3.5	0.33				3.5
2 地域環境への配慮					3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				
2.2 温暖環境悪化の改善					3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自		十分な駐車場、駐輪場を設けています。	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25				
3 周辺環境への配慮					2.5	0.33				2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				
1 騒音		独自			3.0	0.33				
2 振動		独自			3.0	0.33				
3 悪臭					3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					1.6	0.40				
1 風害の抑制					1.0	0.70				
2 砂塵の抑制					3.0					
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				
3.3 光害の抑制					3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				広告物照明を行っていません。	4.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				

**重点項目スコアシート**  
 (仮称)東浦町緒川駅東計画

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:20.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 東浦町緒川駅東計

計画上の配慮事項	
総合	・外皮に十分な断熱性能を施して熱損失を抑制すると共に、高効率機器や節水型機器を採用し、敷地内温熱環境の向上や資源の保護に努めています。
Q1 室内環境	・F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。
Q2 サービス性能	・給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。
Q3 室外環境(敷地内)	・緑地を適度に設けてまちなみや景観に配慮しています。
LR1 エネルギー	・設備に関してBEI=0.88とし、高効率設備の導入し、環境負荷への配慮をしています。
LR2 資源・マテリアル	・LGS+PBにして再利用向上へ取り組んでいます。
LR3 敷地外環境	・十分な駐車場、駐輪場を設けています。また、近辺が渋滞しないような設計となっています。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。